

団体名

糸満市立真壁こども園

連絡先 TEL : 098-997-2833

Eメール : makabe@city.itoman.lg.jp

1 実践事項 (①)

タイトル : 「 幼小連携の取り組み ～円滑な接続を目指して～」

2 実践内容

○学びの連続性についての共通理解

園内研修にて1～5歳の各年齢の育ちや、「遊びの中の学び」について実践事例や公開保育を通して考え、共通理解を行う。

○互恵性のある交流計画

交流の振り返りから、園児・児童の考えや思いを取り入れた交流計画を立て、互いに主体的な活動に繋がるよう配慮していく。

○「接続期カリキュラム」・「架け橋期のカリキュラム」の改善や作成

現在活用している「接続期カリキュラム」を活かしながら、より丁寧な幼小接続に向けて話し合う中で改善を行い、「架け橋期のカリキュラム」の作成を進めていく。

3 説明資料

園内研修：園児の遊ぶ様子から『5領域・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を手がかりに、各年齢の育ちについて考え、学びました。

園児・児童が考えた交流内容を実践。交流の度に互いに心の距離が近くなり、笑顔で関わる姿が増えて次の交流を楽しみにしています。

研修や会議、交流の打合せなど顔を合わせる機会を捉え、少しの時間でも子ども達について語り合い、カリキュラムの改善ができるように工夫しました。



4 成果

- ・園内研修を通して、理論研修・公開保育・グループワークなどを行う中で、各年齢の園児の実態や育ちに合わせた丁寧な援助や環境の構成が、それぞれの年齢の豊かな成長に繋がり、それが就学以降の学びに向かう力へと繋がっていくことを再確認することができた。
- ・幼小の園児・児童の意見や思い、また教諭の思いを盛り込んだ交流計画を立てることで、子ども達が積極的に参加しようとする姿が見られるようになってきた。また、小学生への憧れや入学への期待が芽生えている様子も見られた。
- ・園児や児童の姿について話し合う機会を工夫することができた。その都度、接続期カリキュラムを見直しながら架け橋期のカリキュラムを協働で作成していった。その中で、互いの目指す子どもの姿や育てたい力が明確になってきた。

5 課題

- ・担当教諭同士だけでなく、こども園・小学校全体としてつながり合えるような工夫をし、幼小の円滑な接続を図っていきたい。
- ・架け橋期のカリキュラムを作成することがゴールではなく、子どもを中心に据えた語り合いの中で今後もカリキュラムの検証、見直しを図っていく。